

2023年度第5回執行理事会議事録

日程：2023年11月11日（土）13:00-16:30【WEB会議】

出席：岡田 誠，杉田律子，星 博幸，中澤 努，緒方信一，内尾（保坂）優子，内野隆之，尾上哲治，加藤猛士，狩野彰宏，亀高正男，小宮 剛，高嶋礼詩，辻森 樹，松田達生，山口飛鳥

監事：岩部良子

欠席：坂口有人，矢部 淳，山本正司（監事）

事務局 澤木

*定足数（過半数：10）に対し，執行理事16名の出席

*前回23-4議事録案は，本執行理事会にて承認された。

報告事項

1. 全体的報告

- ・ 経済産業省資源エネルギー庁より，総合資源エネルギー調査会臨時委員の推薦依頼があり，会員1名を推薦した。

2. 運営財政部会（亀高・加藤）

1) 総務委員会

<共催・後援依頼，他団体の募集，連絡等>

- ・ 日本ゼオライト学会より，第39回ゼオライト研究発表会（11/30-12/1；於タワーホール堀留（東京都江戸川区））への協賛依頼があり，承諾した。
- ・ 核のゴミ地層処分問題の全国声明に取り組む世話人会より，11/1付声明文が送付された（声明 世界最大級の変動帯の日本に，地層処分の適地はない—現在の地層処分計画を中止し，開かれた検討機関の設置を—）
- ・ 石油技術協会 令和5年度秋季講演会（地質学会協賛）の協賛御礼があった（11/8開催，参加者231名）。

<会員>

1. 今月の入会者（正会員：2名）

一般会員（2名）小松原健一，飯田和也

2. 今月の退会者（正会員：1名）

一般会員（1名）新保陽輔

3. 今月の逝去者（正会員：1名）

シニア会員（1名）古儀君男（逝去日：2023年11月5日）

4. 2023年10月末会員数

賛助：30，名誉：37，ジュニア：3，正会員：3214 [うち一般2154，シニア847，学生213]，合計3284（昨年比-23）

<会計>

特になし

<その他>

- ・ 定款・規則類の整理について：事業部会に属する委員会規則の整備状況が報告された。【事業部会に属する委員会】（整備済）総務委員会，行事委員会，専門部会連絡委員会，国際交流委員会，地質技術者教育委員会/（未整備）広報委員会，地質標準化委員会，地質学雑誌編集委員会，Island Arc 編集委員会，企画出版委員会，地学教育委員会，生涯教育委員会
- ・ 選挙システム：代議員選挙の実施に伴い，一部不具合があったが（他薦届け後に自薦届けを提出した際に他薦届けが消失した），対応し改善した。
- ・ 下敷き増刷：校正中。前版で校正漏れの箇所などを中心に確認中。

3. 広報部会（内尾・松田）

1) 広報委員会（内尾）

- ・ 学会 HP について：現在，創文印刷（創文ドットコム）に打診中。安全な運用，会員活用，若手会員コンテンツ，一般向けコンテンツの充実をコンセプトとする。
- ・ 第 15 回惑星地球フォトコンテストの募集を開始した（締切 1 月 31 日）。

4. 学術研究部会（辻森・尾上・高嶋・山口）

1) 行事委員会（高嶋・山口）

(1) 2024 山形大会

- ・ 巡検案内書の執筆依頼はすでに山崎 誠編集委員長より行われた。
- ・ 巡検コース案（→審議事項へ）
- ・ 12 月 1 日に会場下見予定。会場予約は 1 年前から。

(2) 2025 熊本大会

LOC は，運業者として（株）アカデミックブレインズを希望している。LOC は，早めに打ち合わせ，準備を開始したい意向であるが，契約後は毎月の委託料が発生するため，早くても契約開始は，2025 年 2or3 月から。

(3) 2026 年学術大会：開催校をそろそろ打診する時期。中部支部に連絡して検討を依頼する。

(4) JPGU 共催セッション：共催セッションとして追加 2 件を加えて計 14 件（人間環境と災害リスク，堆積・侵食・地形発達プロセスから読み取る地球表層環境変動，活断層と古地震，地磁気・古地磁気・岩石磁気，日本列島および東アジアの地質と構造発達史，年代層序単元境界の研究最前線，Oceanic and Continental Subduction Processes: petrologic and geochemical perspective，変形岩・変成岩とテクトニクス，地殻表層の変動・発達と地球年代学／熱年代学の応用，岩石・鉱物・資源/地球史解説：冥王代から現代まで，Evolution and variability of the Asian Monsoon and Indo-Pacific climate during the Cenozoic Era，ジオパーク，地質学のいま）の応募があった。

(5) ショートコース（山口）

- ・ 第 9 回ショートコース「応力逆解析法」を実施した（10/22 開催 参加者 50 名）。参加者アンケートによると，参加者の満足度は高く，特に 20 代の学生，社会人の評価が高かった。企業のコンサルにとっても実務的な講習であり反響があった。
- ・ 今後のテーマとして，放射年代測定（再），微化石による年代決定，古地磁気，海洋資源，極域地質など

がある。

- ・ アーカイブ視聴について：参加申込者以外にも有料で講義内容のアーカイブが視聴できれば良いとの意見があった。有料での限定公開について前向きに検討を進める。講師の事前了解や著作権，有料配信のツールなど（YouTube は原則無料公開，有料公開不可）を確認する。Zoom のクラウドレコーディングを活用するのが簡便で使いやすいのではないか。

2) 専門部会連絡委員会（尾上）

特になし

3) 国際交流委員会（辻森・岡田）

特になし

4) 地質標準化委員会（内野）

特になし

5. 編集出版部会（狩野・小宮）

1) 地質学雑誌編集委員会（小宮）

(1) 編集状況報告（2023 年 11 月 9 日現在）

- ・ 2023 年投稿論文：52（昨年比-12）[内訳] 総説 1（和文 1），論説 24（和文 24），ノート 3（和文 3），レター 6（和文 6），報告 6（和文 4，英文 2），フォト 2（和文 2），討論 1（和文 1），巡検案内書 8
査読中：27，受理済み：1，取下げ：1
- ・ 129 巻：公開済み 47（586 ページ），入稿・校正中：6，
- ・ J-STAGE Data ユーザー会(11/30, zoom)があり，利用機関の事例紹介として，小宮委員長が地質学雑誌での J-STAGE Data の活用状況などについて，話題提供を行う。

(2) その他

特になし。

2) Island Arc 編集委員会（狩野）

(1) 編集状況報告

31 巻，発行原著論文 29 編（伸びは平年並み），投稿数 50（投稿数減），2023 年の受理は 7 割程度，IF:0.78（2023 予定）。

(2) その他

特になし。

3) 企画出版委員会（松田）

特になし。

6. 社会貢献部会（坂口・矢部・内野）

1) 地学教育委員会（坂口）

特になし。

2) 地質技術者教育委員会（坂口）

11 月 7 日に委員会を開催し，下記について検討をおこなった。

- (1) 地質系業界説明会（9/18 京都大学，9/22 オンライン）

- ・ 簡易の開催報告を学会 HP に掲載した。対面の延べ訪問数 217 で、当日参加者が多かった。動線が良く場所に恵まれた。オンラインは延べ 109 で少し少なかった。アンケート結果からは、学生の満足度は概ね高かったが、学生の個人情報の企業への周知範囲について考慮すべきとの意見があった。

(2) キャリアビジョン誌

- ・ 関連企業 2000 社（地質コンサルタント 1200 社、建設コンサルタント 800 社、資源系 20 社）に掲載案内パンフレット配布済み。申込締切：12/15（金）、協賛費 3 万円/1 掲載地区、賛助会員は 1 掲載地区分無料。
- (3) 第 4 回 JABEE シンポジウムは、3/3（日）オンライン開催を予定。テーマ、講演者等を選定中。
- (4) 若手人材動向調査は、8 月 10 日から開始して 11 月末に締切。全国 32 校が回答。解析中。

3) 生涯教育委員会（矢部）

- ・ 地質学会 News 誌の「博物館・ジオパークで地球を学ぼう」について、2024 年度を担当する東北・北海道支部の各機関・担当者への打診を進めている。

4) 地震火山地質こどもサマースクール（星）

- ・ 本年 8 月に開催された第 22 回サマスク（神奈川県平塚市とその周辺）の詳細な実施報告記事がニュース誌 10 月号に掲載された。執筆者は野崎 篤会員（平塚市博）。

5) 地質の日（矢部）

特になし

7. その他執行理事会の下に設置される委員会及び組織

1) 利益相反マネジメント委員会（中澤）

特になし。

2) 若手育成事業検討 WG（内野）

特になし。

3) 表彰制度検討 WG（中澤）

特になし。

8. 理事会の下に設置される委員会

1) ジオパーク支援委員会（矢部）

特になし。

2) 地学オリンピック支援委員会（坂口）

特になし。

3) 支部長連絡会議（杉田）

特になし。

4) 地質災害委員会（松田）

- ・ 関東支部との共催で 12/2（土）に関東地震 100 年関連行事として震生湖巡検を実施予定。ホームページに案内を掲載済み。講演会と同様に冒頭で挨拶する。

5) 名誉会員推薦委員会（星）

- ・ 2024 年度名誉会員推薦委員会委員の選定について、階層別委員について 4 名を選定し内諾を得た。理事

会選出委員についても検討を進める。

- 6) 各賞選考委員会（中澤）
特になし。
- 7) ジェンダー・ダイバーシティ委員会（辻森）
特になし。
- 8) 連携事業委員会（中澤）
特になし。
- 9) 法務委員会（中澤）
特になし。
- 10) 若手活動運営委員会（星）
特になし。

9. 研究委員会

- 1) 南極地質研究委員会（委員長 大和田正明）
特になし。
- 2) 法地質学研究委員会（委員長 川村紀子；杉田）
FGG-IFG 会合（The Geological Society Forensic Geology Group and IUGS-IFG, 2023/12/4-5, 於ロンドン）に杉田副会長が参加し、本委員会の紹介等発表予定（ポスター）。委員会レベルでの国際交流も行っていきたい。

10. その他

特になし。

審議事項

1. 地質学雑誌編集委員の追加（小宮）
文化地質分野の投稿原稿増加に伴い、大友幸子会員（分野：文化地質）に加わっていただく。任期は、他の委員と合わせて2024年総会まで。
2. アルカリ長石の用語使用について（星）
アルカリ長石の用語使用に関する論文が最近複数の和文誌に公開されたことに伴い、高校教科書における用法も検討が始まりつつある。現行教科書は全て「カリ長石」となっている。JISでは長石（斜長石とアルカリ長石）となっており、カリ長石の表記はない。IMA（国際鉱物学連合）で長石の区分も確認の上、地質学会として案を提示したい。今後継続して検討する。
3. 名誉会員の制度のあり方と選考プロセスに関する申し合わせの改正について（星）
以下の内容について議論した。議論の内容を踏まえ、理事会に改正案を提示する。
 - (1) 推薦プール制度の廃止を提案する（本年4月理事会で予告の通り）。
 - (2) 名誉会員の資格について整理し、修正を提案する。

- (3) 名誉会員の人数については、全会員数に占める名誉会員の割合は1%程度、原則選出3名以下/年とする現状の申し合わせは妥当。今後も数値的な歯止めは必要。
- (4) 申し合わせの名称も簡潔に変更する。
4. 第19回国際熱年代会議（Thermo2025；日本地質学会共催）からの協力依頼について（星）
2025年9月に金沢で開催されるThermo2025と地質学会熊本大会の日程が重複しないよう配慮を要請されている。Thermoの主要スケジュールに配慮して日程調整を図りたいが、全日程を避けて熊本大会を設定することは難しい。、Thermo参加者の熊本大会への参加（特に巡検）は可能だが、案内書の英語化や食事対応（ビーガン等）は難しい。なお、2024年山形大会で広報用ブースを提供して欲しい旨の依頼があり、対応する。
5. 2024年山形大会巡検コース案（高嶋）
類似コースの内容、日程の見直し、最小催行人数等などLOCに再検討をいただき、プレ、ポスト日程を含め計8コース（アウトリーチ巡検1コースを含む）を承認した。
6. 2025熊本大会の日程について
Thermo開催日程（2025/9/11プレ、9/14-20）との重複を避けるため、（案1）9/13-15、（案2）9/6-7を中心とした3日間、としてThermo側に打診し、熊本LOCとも調整を行う。ただし（案2）は相当に暑いため、大会・巡検実施は大変厳しい条件となる。
7. 地球・資源分野JABEE委員会 次年度の役員への推薦
地球・資源分野JABEE委員会から、次期（2024、2025年度）の運営委員（2名以上）および監事（1名以内）の推薦依頼があった。候補者として、地質学会からの現委員4名と監事1名を継続して推薦することを承認した。
8. 理事会審議事項の確認
- ① 2023 年度事業実績概要（案）
 - ② 2024 年度事業計画骨子（案）
 - ③ 2024 年度総会の日程
 - ④ 研究奨励金規則一部改正（使用期間の延長可）について（内野）
 - ⑤ 2024 年度名誉会員推薦委員会委員の選出（星）
 - ⑥ 名誉会員選出の申し合わせの改定
 - ⑦ 各種委員会の委員追加、交代等の承認（地質学雑誌編集委員会）

監事コメント

（岩部監事）

- ・ 研修会の録画データ等の公開については様々な事例がある。情報漏洩等のリスクに留意しつつも、ぜひとも発展的に進めて頂きたい。

- ・ 地質系業界説明会（企業ブース）における会員や個人の情報の取扱いについては、公開行事の性質上、意図せずとも情報漏洩につながるリスクがあるので、学会、出展者含めて十分に留意されたい。

以上

2023年12月9日

一般社団法人日本地質学会

会長（代表理事）岡田 誠

署名人 執行理事 中澤 努